



可能性は無限大！

国際戦略局通信規格課
標準化戦略室長

谷口 宏樹 TANIGUCHI Hiroki

平成 17年 4月 総務省採用
総合通信基盤局電気通信事業部電気通信技術システム課
平成 19年 7月 農林水産省農村振興局整備部地域整備課
平成 21年 4月 同 農村振興局整備部農村整備官付集落整備事業係長
平成 21年 7月 総務省総合通信基盤局総務課総括係長
平成 22年 7月 同 総合通信基盤局電気通信事業部事業政策課主査
平成 23年 7月 同 総合通信基盤局電波部移動通信課課長補佐
平成 25年 7月 同 情報流通行政局地域通信振興課課長補佐
平成 26年 1月 同 大臣官房秘書課課長補佐(総務大臣補佐官付)
平成 29年 8月 同 大臣官房企画課課長補佐
平成 30年 8月 国立研究開発法人情報通信研究機構北米連携センター副センター長
令和 2年 8月 総務省情報流通行政局放送技術課課長補佐
令和 4年 7月 同 総合通信基盤局電波部電波政策課統括補佐
令和 6年 7月 現職

情報通信技術の魅力

皆さんご存じのとおり、情報通信技術は社会のいたるところで使われており、日常生活や経済活動を行う上で無くてはならないものとなっています。また、情報通信分野の技術革新は驚くほど早く、数年前では想像もつかないようなことが新技術によって可能となるのも日常茶飯事です。

このような情報通信技術ですが、それらをうまく使いこなすビジネスモデルを考えたり、社会の課題を解決するために活用したりするのは簡単なことではなく、技術の理解や使いこなすための工夫、ルール整備が必要です。技術をキーに全体のエコシステムを考える必要があると思います。

日々進化するこれらの技術を理解し、社会の求めに応じて技術を活用できる仕組みづくりをしていくこと、それによって社会が変わる瞬間に立ち会えることは、この仕事をしていて非常に魅力的だと感じています。

総務省の役割

情報通信はいわゆる横串機能を持つことから、広く様々な業界の状況も把握しそれらの業界で情

報通信の果たす役割を理解して何を為すべきかを考える必要があります。社会に無くてはならないものとなっている情報通信技術をどう活用していくか、それは社会のなかでこれらの技術がどういう役割を果たしているかといった観点も含めて考えていくことになります。総務省は情報通信分野を所管し、規制と振興の両面からこのような観点で社会より良くしていくための仕事をしています。

現在私は、情報通信分野の標準化や知財戦略の担当をしています。つながることで付加価値を生み出す情報通信では標準化は必須であり、知財戦略はビジネスにおいて重要です。海外の企業は標準化と知財をうまく活用してビジネスをしていたりします。日本の企業が革新的な技術を持ち、知財も活用して海外で活躍していくためにはどういう戦略をとるべきか、いろいろな方々とともに日々考えています。

未来を変えにこう

社会をより良くしていくためには、自らプレイヤーとなって直接貢献するかたちが分かりやすいですが、総務省のようにルール作りの側に立つことで、プレイヤーの立場だけでなく、利用者だったり業界全体だったり、関係するエコシステム全体を見据えて、全体としてより良い方向に仕組みづくりをしてい

くことができます。

AIや量子技術といったこれまでの常識を覆すような技術が登場し、当然ネガティブな側面もあるなかで、それらの新しい技術の本質を見極め、社会のなかでいかに当たり前に見えるようにしていくか、役所での仕事の楽しさはそこにあると思います。

是非、情報通信分野の技術革新に揉まれながら、社会をより良くしていく仕事をしてみませんか。



行政官が扱う「法令」や「制度」。私は大学ではコンピュータサイエンス、技術分野が専門で、法令や制度は少し遠く感じていました。しかし、行政官として仕事をするうちに気づいたのは、法令や制度の分野にも、技術の知見がとても役立つということです。あなたの技術も、行政分野の様々な場面できっと発揮できます。

規制や制度の背景には技術がある

私は行政官になって3年目のとき、携帯電話などのモバイル市場の事業者間取引規制を3年間担当しました。一見、技術とは真逆の領域。最初は苦労したのを覚えています。転機になったのは、規制の仕組みを勉強していた時です。例えば料金の算定方法は、モバイルネットワークの設備やプロトコルといった技術を踏まえて決まっており、この勉強にデジタル技術の知識が直接役立ちました。また、会計や金融、経済の分野も勉強が必要でしたが、個人的には、物理の知識が役立ちました。技術の知見があると、似ている分野を応用できて効率的ですし、新しく身に着けた知識はその後の強みになります。

よりよい制度をめざし、法令とシステムを同時に設計

同じ規制を担当しているとき初めて経験したのが、法令を「書く」ということです。法令は言葉が難しく、最初は抵抗がありました。でも書くうちに、法令は、プログラムのコードによく似ていることに気づきました。複雑で大規模な制度を、厳密な構造で整然と記述し、自然言語と形式言語の性質を併せ持ちます。私はプログラミングが好きなのですが、同じように、法令を読み書きするのも楽しくなりました。行政官になって7年目には、別の分野で特例制度を新設する法律改正にも携わり、ユーザのニーズや技術背景の分析から、制度設計、法案作成、運用、初期の届出支援システムの内製まで担当しました。制度と技術のどちらも深く理解した上で、法令というコードと、システムというコードを同時に設計し、よりよい制度を目指す、これは、行政分野でしかできない技術の発揮方法かもしれません。

政策立案に生かすため、技術を自ら調査し、使える技術は自ら活用

複雑化する社会には、技術の知見を持つ行政官がますます必要です。生成AIのような新しい技術が次々に登場する中で、素早く的確に利点や課題を把握し、政策を立案するためには、自ら技術を調査し、また使えるものであれば自ら活用することが重要です。あなたの技術で、より便利で豊かな社会が実現できるかもしれません。一緒に力を発揮してくださる方をお待ちしています。



国際会議で日本のモバイル市場政策についてプレゼン



各府省庁等職員のサイバーセキュリティ技術競技会(NISC-CTF)で優勝

あなたの技術と一緒に目指す、より便利で豊かな社会

国際戦略局技術政策課
研究推進室課長補佐

山内 匠 YAMAUCHI Sho

平成 24年 4月 総務省採用
情報流通行政局放送技術課
平成 26年 8月 同 総合通信基盤局電気通信事業部料金サービス課移動通信係長
平成 29年 7月 内閣官房番号制度推進室・内閣府大臣官房番号制度担当室主査
平成 30年 4月 総務省総合通信基盤局電波部電波政策課課長補佐
令和 2年 7月 米国留学(カリフォルニア大学サンディエゴ校)
令和 4年 6月 デジタル庁統括官付参事官付参事官補佐
令和 6年 8月 現職

